

日時・場所	平成 30 年 11 月 28 日 (水) 15 : 00 ~ 17 : 30 高松市医師会館
参加者	受講者 40 名 行政担当者 3 名
内 容	<p>【テーマ】 テーマ：認知症高齢者のコーディネーション</p> <p>情報提供：認知症高齢者のマネジメントのポイント 村富秀章 氏 (第 3 期生) 認知症高齢者が利用できるサービス 大川裕子 氏 (第 1 期生)</p> <p>事例検討：認知症高齢者事例</p>
結 果	<p>情報提供：</p> <p>1. 認知症高齢者のマネジメントのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の特徴についての説明 「脳疾患」「認知機能障害」「生活機能障害」「身体疾患」「行動心理症状」が重なり合っている。複雑化のプロセスは初期段階に起こる。 ・ 国が目指している認知症施策の取り組みについて説明 ・ 医療法人社団以和貴会が実施している認知症の治療や介護支援サービスの紹介 ・ 認知症治療の実際 「受診につながるまで」「診断を受ける際の流れ」「診察後の処遇」を説明 ・ コーディネートを行う上での留意点を説明 「疾患の理解をしっかりと十分にもつこと」「治療方法についての理解も行い医療との連携を適切に行える事」「介護者の支援にも取り組むこと」「地域全体で支えていく事」 ・ 私たちができることとして 「ご本人・ご家族の思いをしっかりと受け止め理解する」「備え型支援の取り組み」を伝える <p>2. 認知症の人の支援について</p> <p>地域で暮らす、認知症の人への支援依頼があった時に気を付けることを説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問時に確認するポイント、聞き取りのコツについて説明。 ・ 認知症があっても本人が何もわからないわけではない。ACPをもとに、本人の本当の意思を引き出す支援が必要である。 ・ 早い時期から一番身近で接する専門職が、本人の意思を大事にしながら支援することの重要性を説明。家族と意見の相違があっても、あくまで本人主体で、本人の尊厳を傷つけないような対応を行うことを説明。 ・ たとえ認知症があっても、本人を取り巻く関係者(家族、近隣住人、医療関係者、介護関係者など)が重層的にかかわることで、本人の望む暮らしを実現できる可能性があること。支援者は最大限努力しなくてはならないことを説明。